

やっと春らしくなってきました。桜ももうすぐです。

/// I N D E X ///

- ・ ISO 関連解説...-----...検証、認証、保証？
- ・ LCA の実務 mini 15---- LCA と CFP はクリティカルレビューです。
- ・ LCAF からお知らせ...ショートノートですが「マスバランスアプローチ」のセミナーです。
- ・ 編集後記.....潤井川のりゅうがふち

■ LCA 関連解説：検証、認証、保証？ ■

最近、生産している製品の LCA や CFP を実施する企業が増えてきました。その報告書の「検証を受けました」という広報も良く見ます。「検証」は、後述するように ISO の分野では「verification」ですが、LCA の国際標準規格である ISO14040:2006 と ISO14044 2006、並びにカーボンフットプリント (CFP) の ISO14067:2018 では、「検証(verification)」は対象外とされています。

LCA と CFP の国際標準規格に書かれているのは、クリティカルレビュー (critical review) です。LCA の ISO14040 :2006 にあるその定義は、JIS Q 14044 の和訳によれば「LCA と、LCA に関する規格の原則及び要求事項との間の整合性を確実にすることを意図したプロセス」です。したがって、実施した LCA がこの規格の原則と要求事項を満たしていることを確認することになります。LCAF でも皆さんの LCA や CFP の実施方法がそれぞれの ISO に準拠しているかどうかをクリティカルレビューする業務を請け負っています。

それでは、「検証(verification)」はどういうことでしょうか？ まず、自己宣言の環境ラベルを示す ISO14021:2021 の定義では(まだ和訳 JIS が出ていません)、「confirmation of the validity of an environmental claim using specific predetermined criteria and procedures with assurance of data reliability」です。すなわち、「データの信頼性を保証 (assurance) して、前もって決められた方法 (criteria) に従って環境宣言の有効性を確認すること」です。

LCA の結果を開示するタイプ III 環境ラベルの ISO14025 :2006 では、もっと端的に「客観的証拠を提示することによって、規定要求事項が満たされていることを確認すること (JIS Q 14025 の和訳)」とされています。

また、組織の GHG 排出量の算定方法を示す ISO14064-1:2018 では、「検証 (verification) :過去のデータ及び情報の声明書について、それが実質的に正しく、基準に適合しているかどうかを判断するために評価するプロセス (JIS Q 14064-1)」です。この定義は、GHG の算定についての検証及び 妥当性確認のための仕様及び手引である ISO14064-3 :2019 と共通です。つまり、データそのものの正しさを確認することが必要になります。

この ISO14064-3:2019 及びプロジェクトの GHG 排出量を算定する ISO14064-2 :2019 には「妥当性確認 (validation) :将来の活動の成果に関する声明書の裏付けとなる、前提、限定及び方法の合理性を評価するプロセス」もあります。算定方法の考え方が合理的であるかどうかを確認することです。さらに「保証」についても定義されていて、「合理的保証 (reasonable assurance) :検証活動の性質及び範囲が、過去のデータ及び情報について、高くはあるが絶対的ではない水準の保証を提供するよう設計された保証水準」と「限定的保証 (limited assurance) :検証活動の性質及び範囲が、過去のデータ及び情報について、水準を下げた保証を提供するよう設計された保証水準」とされています。

さらに「合理的保証水準を達成するには、検証を行う者は、重要な虚偽記載のリスクを受容可能な低いレベルに低減するため、十分な量の証拠を考慮していなければならない。」とされていて、かなり厳しい検証を行うことが必要になります。限定的保証では「検証を行う者は、GHG 声明書に虚偽表示があると 思われるものはなかったという結論 (ネガティブな表現形式の結論) を出すことが可能である。」とされていますが、同時に「検証を行う者が限定的保証水準での業務を引き受けるのは、通常、以前に合理的保証水準で検証を実施したことがあるときに限られる。」とされているので、もともと高い水準の保証が求められていると言えます。

さて、ここまで見てきて困るのは「認証」がないことです。英語では「certification」と思います。全部を調べていませんが、TC207 の規格には「認証」がないと思います。

実は、「認証(certification)」は ISO と IEC に共通の ISO/IEC17000:2020(適合性評価:conformity assessment)にあります。「適合性評価」は、国際標準規格などに合致していることを示す方法で、検証や妥当性確認や保証も含んでいます。私があまり得意な分野ではないのですが、今改訂中の環境ラベルの3つの規格、すなわち ISO14021(自己宣言)、ISO14024(タイプ I)、ISO14025(タイプ III)に適合性評価を書き込むという提案があるので、急いで勉強しています。次回の LCAF 通信で書きたいと思います。

■■ LCA の実務 mini15 : LCA と CFP はクリティカルレビューです。 ■■

上の「LCA 関連解説」で書いたことを簡単に言うと、LCA と CFP の「クリティカルレビュー」では、LCA の実施方法が ISO に準拠しているかどうかを見ます。「計算結果」を含むデータは LCA の実施者が責任を持つこととなります。検証では「データ」や「客観的証拠」も第3者が見ることとなります。

LCAF では「クリティカルレビュー」を請け負います。以前には、LCAF のホームページで「LCA 報告書の第3者検証を実施する」と言っていましたが、正確ではないので「クリティカルレビューを実施する」に訂正しました。

皆さんが自信をもって LCA や CFP を算定し、バリューチェーン全体に係わる企業間でそれらが検証を必要とせずに流通する社会になるように支援して行きたいと思います。

■■ LCAF からのお知らせ ■■

○中級研修の副読本を作りました。来年度からインターネット上で公開します。

○本当にショートノートですが、来週3月25日(月)13:00から、LCA 活用推進コンソシアムのセミナー(オンライン)で稲葉が「マスマランスアプローチ」を解説します。マスマランスアプローチについての世界の LCA 専門家の意見や企業の実施状況などを話します。LCA 活用推進コンソシアムの会員の方はぜひご参加ください。事後に感想を聞かせてください。

○[好評につき増刷します。] 参考図書「基礎から学ぶ LCA~LCA の実施と活用~」

以下からお申込みください。(3,000円+税+送料)です。

<https://lcaf.or.jp/education/textbook/>

この参考図書の図表をパワポに貼り付けた資料の販売を始めました。価格は要相談です。

■■ 編集後記 ■■

今年の桜は早いと思っていたのですが、このところの寒さで少し遅くなっているようです。某誌に私のふるさとの桜が出ていたので、添付しました。子供のころは「りゅうがふち」と言っていたのですが、正しくは「龍巖淵(りゅうがふち)」というようです。

小学校4年生になると、夏の川遊びに赤ふんどしの着用が許されます。誰が許すという訳でもないのですが、子供同士の決まり事だったのだと思います。赤ふんどしはうれしかったのですが、この「りゅうがふち」に高い岩から飛び込まなければならないことが怖かったです。慣れればなんとも無い高さなのですが。

「りゅうがふち」が桜の名所とは知りませんでした。私が中学生になるころには、小学生も川で泳ぐ習慣もなくなっていたように思います。護岸工事で桜が植えられたのかもしれませんが。

初めての時はとても難しいと思うことがあります。LCA に最初に出会う人に「LCA は難しい」とよく言われます。でも、基本的には四則演算の世界ですので、慣れれば簡単なこととなります。LCAF の無料相談や参考図書「基礎から学ぶ LCA」、さらには支援事業も利用してください。

(LCAF 理事長 稲葉 敦)

ご意見、ご感想、この「LCAF 通信」の配信停止のご連絡はこちらまで
lcaf-contact@lcaf.or.jp

一般社団法人 日本 LCA 推進機構

Japan Life Cycle Assessment Facilitation Centre (LCAF)

(エルカフと呼んで(読んで)ください)

〒170-0013 東京都豊島区東池袋 1-36-7

アルテール池袋 608

電子メール : lcaf-contact@lcaf.or.jp
URL:<https://lcaf.or.jp/>